

2022年「国際ジェンダー学会研究活動奨励賞」研究活動報告書

1. 提出日：2023年5月31日

2. 提出者氏名：山本沙希

3. 申請した研究テーマ：

現代マグリブ女性の起業実践と法—「手工芸職人証明書」発行制度とのかかわりから

4. 研究活動報告

調査研究活動支援金は、北アフリカのマグリブにおいて手工芸分野の事業を営むムスリム女性の起業実践を法制度とのかかわりに依拠し分析するという、研究活動のために使わせていただいた。

イスラームを国教とし国民の大半がムスリムであるチュニジア、アルジェリア、モロッコのマグリブ3国は、欧州による植民地支配の経験など歴史文化的な共通点をもつ一方で、政治体制や産業構造上は異なる特徴を有しながら発展してきた。そのうち、これまで主要な研究対象国としてきたアルジェリアは、フランスの植民地支配から独立後、地下資源依存型の経済体制に加え、1990年代に事実上の内戦を経験したこともあり観光産業に乏しく、手工芸分野で起業する女性は国内市場向けに活動するのが主流であった。それに対してチュニジアとモロッコは、系統は異なるものの観光産業を推進し欧州を始め周辺国からの観光客の受け入れ先となってきたことから、都市部で手工芸職人として活動する女性事業主の取引相手は国外からの観光客や外国人居住者を含み、より多様化する傾向にある。

しかし、従来の研究はこうした産業構造の違いを示すに留まり、機織りや刺繍、仕立てなど同系統の「手工芸」に従事する同地域の女性職人が、事業認可を得ず、所謂「インフォーマル経済」の範囲で零細事業を営む事業主として活動している背景とその課題については、十分に検討してこなかったと言えよう。よって本研究では、当該課題へ接近するための手始めの試みとして、マグリブ各国の手工芸分野に関連する国内法制度と、それが起業実践に及ぼす作用を検証することを目指した。

2022年度は、まず日本で入手可能なマグリブ女性の商行為に関する人類学及び民族学的研究の読み込みを行った上で、各国における関連法の条文等を参照し、手工芸分野の起業に必要な制度的手続きの比較検討をおこなった。次いで法制度が女性事業主や企業家によってどのように認識されているか把握するため、2023年2月にはモロッコのラバトで2週間、フランスのマルセイユで1週間のフィールドワークを実施した。当初はアルジェリアでの調査を優先的に計画し現地の研究機関より受け入れの内諾を得ていたものの、同国の高等教育省による承認待ちの状態が続いたために主要な渡航先をモロッコのラバトに変更し、加えてアルジェリア系移民が多く居住すると言われるフランスのマルセイユで補足的な調査をおこなうこととした。モロッコでは女性企業家団体や、長期にわたり女性への起業支援を実施してきた女性支援団体、女性起業支援プロジェクトを展開する国際援助機関を訪問し、モロッコ国内における女性の起業環境、近年の国家政策の傾向、コロナ禍の起業状況に関する聞き取り調査に着手した。フランスのマルセイユでは、ヨーロッパの観光客向けにアルジェリア伝統衣装の仕立て業を営む仕立て職人等に接触し、移民として同国で起業することについて語りのデータを得た。これらの調査データを更に精緻化し、研究成果としてまとめることが今後の課題だが、2022年度の主要な研究業績は以下の通りである。

<論文>

山本沙希 2022「現代アルジェリアにおける機織り女性のコロニアルな遺産の利用と組織化の実践—カビリー地方『絨毯の村』を事例に」日本中東学会年報 AJAMES. No38-1, pp. 125-160.

<ポスター発表>

山本沙希 2022「現代アルジェリアにおけるカトリック宣教者とムスリム女性との相互流用に関する考察」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 (AA 研) 海外学術調査フォーラム (オンライン).

山本沙希 2022「現代アルジェリアの女性零細事業主が描く『信』世界」2022 年度イスラーム信頼学全体集会ポスターセッション (於：東京外国語大学).